いくの

社会福祉法人 いわき学園
いわき生野学園
544-0002
大阪市生野区小路 3-19-19
TEL:06-6753-1121　FAX:06-6753-1123

園　長　挨　拶

令和２年８月より大狩園長の後任としていわき生野学園の施設長に就任しました、椎原正法（しいはらまさのり）です。挨拶が大変遅くなり申し訳ありません。昭和６０年、障害児入所施設「大阪市立 敷津浦学園」に就職し、地域包括支援センターを経て、再度、「大阪市立 敷津浦学園」に異動となり、今回、「いわき生野学園」へ配属となりました。

入所支援と通所支援において、支援の方法等の違いはありますが、基本的な考え、利用者への支援に取り組む姿勢は変わらないと思います。少しでも経験がいわき生野学園に関わる皆さんに伝わるよう頑張っていきます。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、昨年より、当学園の関係者の間でも、感染が広まってきました。特に、昨年の６月から９月にかけて多くの利用者･職員の感染がわかり、利用者・ご家族を含め、関係者に大変なご迷惑とご心配をおかけして申訳ありませんでした。今だ感染の収束を見せない中、感染防止に努めていきます。

本園の理念として掲げる「キラリ個性」のもと、利用者の個性を大切に支援していきます。今後とも、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

機関紙
いくの
第 90 号

◇椎原園長挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
◇林田副園長退職の挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・2～3
◇各事業所より　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4～5
◇行事報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
◇職員採用・異動について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
◇美術コンテスト報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

いわき生野学園を卒業するにあたって…

林田　早苗

いわき生野学園を卒業(退職)するにあたり、本園開園当時から今日までを知っている私は、退職のご挨拶として、その歩みを書き記させていただくことにしました。

本園が開園した昭和 55 年、まだ地下鉄も開通していなくて、内環状線整備のため周りは空き地だけで、ぽつんと真っ白な 2 階建ての真新しい建物を見て、大学を卒業したばかりの私は、不安と期待でその建物が凛とそびえる白亜の聖堂のように感じたことを思い出します。

その頃、本園の利用は各区の福祉事務所からの措置依頼によるもので、市内の施設の数も少なかったこともあり、入所希望者をお断りしないといけないことが多く、「東大入学よりいわき学園に入るのは難しい。」と陰口を言われたものです。

その頃私は、指導員といっても利用者と一緒に新しい備品が揃えられた部屋で、作業や学習、クラブ活動など毎日が楽しく新鮮でした。そのような日々の中で指導員として意気込みばかりが先行し空回りしている私と違って、利用者が自分に素直に自然体に生活していることに気づき、利用者は援助する対象者という一方向だけの関係ではなくて、お互いが影響し合い成長する人間関係なんだと私の指導員としての意識も変わっていきました。

長い措置の時代は、お金の心配はほぼ無縁の安定した施設経営ではありましたが、その頃の私たちは、その安定さから胡坐をかき、世の中の変化に目を向けることさえ忘れてしまっていました。長い措置の時代が終わり、平成 18 年に障がい者自立支援法が施行され福祉施設も競争社会の一員として、生き残りを意識しないといけないことに気づき、愕然としたことを今でもしっかり覚えています。

その翌年に私は本園園長に就任して、親方日の丸的施設運営から脱却して、選ばれる施設として、これからも事業継続していける施設づくりを目指さねばという気持ちを強くしていきました。それは又、その当時の職員全員の気持ちでもあり毎日、利用者、ご家族のニーズを追及していくことが、これから本園が進むべき道を照らす光となることを皆が信じていました。

まず、本園も通所更生施設から、生活介護と就労支援 B の事業所となるために、国からの補助金を受けて、定員増のための増築工事を実施しました。就労支援 B では、製パンと軽食を提供する飲食店の営業許可を取り、事業を開始しました。しかしながら、生活介護や就労支援 B の事業では、利用者のご家族の急病等により一時的に家庭生活が困難な状況に陥った場合、日中支援事業のみの本園は無力であることを痛感し、平成 23 年にネバーランドホームを建設し、男女のグループホームとショートステイ事業を開始ました。しかし男女一緒のホームでは共同生活が送りにくいことを知り、同年秋に女性用のホームをオープンし、ウェンデイーハウスと名付けました。

18 歳以上の利用者支援をしてきた私たちでしたが、ネバーランドの 1 階の空きスペースに、障がい福祉サービスの最初のステップである相談支援事業所のピーターパンと、本園利用前の子供たちにも本園として何か出来ないかとの思いから、放課後等デイサービスを開始しました。幸運にも本法人の児童施設勤務経験があった職員が、楽しく友達同士の関わりを大切にしたデイサービスとして、キャプテンフックを運営してくれています。デイサービスの子供たちとの関わりの中で、小学校に入学する前の幼い子供たちへのご両親の強い将来への不安を知り、元倉庫であった建物を購入、改築して、児童発達支援センターとけいワニを開園しました。この時も、療育支援の経験を持つ保育士が、定員 20 名という小さくてアットホームな事業所を力を合わせて築き上げていってくれました。ネバーランドホーム、ウェンデイーハウスそしてキャプテンフック、とけいワニ、ティンカーベル、これらはみなピーターパンの物語から名付けました。

主人公ピーターパンは本園事業のファーストステップである相談支援事業所で、夢追い人として理想を追求する相談支援者としての姿勢を示したものです。ネバーランドは言うまでもなく理想郷と

しての住まい、その女性用ホームはピーターパンの女友達の名前からウェンディーハウスとし、キャプテンフックは、子供を誘拐する海賊船の船長を、本当は子供が大好きな船長であったと考えて、デイサービス事業所の名前としました。そして、児童発達支援センターのとけいワニは、大人のフック船長の片腕を彼の時計と一緒に食べてしまったワニより、大人に負けないパワーのある子供たちであってほしいとの願いから、名付けたものです。

とけいワニは、職員のほとんどが若い女性の保育士だったので、平成 27 年に何かあれば協力し合えるよう隣に就労支援の事業所を立ち上げました。それまでは、すべて購入した事業所でしたが、その前年に本園本体(生活介護と就労支援 B 型)が、築 35 年経過していることもあり、建替え用地として隣接する土地を購入していたので、財政的にも厳しい状況でしたので、はじめて賃貸物件で就労支援の事業所ティンカーベルファクトをオープンしました。本体の就労支援の喫茶店とは異なり、本格的な厨房設備を備えたこの就労移行支援事業所は、その頃の外食産業の人手不足を意識して、飲食に特化した事業所としたいと考えました。しかしながら、私も他の職員も調理の技術も知識もなく、この飲食店の開店はハードルが高いものでした。そんな中、またもや救世主というか飲食店経験者が仲間に加わり、毎日おいしい食事を利用者と一緒に作ってくれるようになりました。賃貸であるこの事業所は月 66 万円の賃料が必要である上に、就労移行は一般企業への就職を目的とする事業のため、支援員は職場開拓に熱心に取組んだ結果、ファミリーレストラン等に就職し現在も頑張っている卒園利用者が、時折本園に顔を出してくれることは支援員として最高の幸せです。しかしながら就職した利用者の欠員補充が大変困難な事業でもあるため、事業所の経営の安定を図る意味で、また本体の就労 B 型だけでは規模が小さすぎて、外部企業からの請負作業が生産量の点で受けにくい状況であったために、ティンカーベルファクトは、就労移行と 2 つ目の就労支援 B 事業との併設を選択しました。こうして職員と一緒になって、事業拡大してきたのですが今日、地域で新たな事業所が続々とオープンする中、また、コロナの終息が見えない状況で、福祉事業所も難しい舵取りをしなくてはならない時代となっています。

退職する前にある職員から、「これからのいわき生野学園はどうあるべきと考えていますか?」と質問されました。この答えを解く鍵は、日々利用者やご家族、社会の声に耳を傾けていれば、こうありたいと思う気持ちが自然と沸き出て、そこから必ず閃きが出るはずです。そして、その閃きこそが未来への原動力になると私は思っています。利用者は、決して弱く支援される対象としてではなくて、支援する側の職員の進むべき進路を示す一条の光を放ってくれる存在であることを忘れなければ支援員として、この閃きは必ず出てくるものですから…。

最後に、本園の活動に対してご指導ご支援、してくださった関係者の皆様方、また一人の人間として多くのことを教えて下さった利用者並びにご家族、そして一緒に夢を追いかけてくれた職員の皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

永い間、お疲れさまでした！

いわき広場

―いわき生野学園各事業からの活動報告―

生活介護

2020 年世界中が震え上がった新型コロナウイルス感染症…。初めて聞く名前に不安いっぱいでした。まさか、私たちの身に起こりうるとは考えもしかったが現実、恐ろしく目の当たりにおきてしまいました。これから先、、いつまでコロナと付き合っていかなければならないのか？戦い続けなければいけないのか…。With コロナ。そんな中でも利用者さんや、職員からは、「バスツアー！いつ行きますか？」「イベントいつありますか？」と、コロナを吹っ飛ばせ!!と気合十分。いつも皆さまから元気をもらいます。なかなかできなかった行事等少しづつ復活させ感染対策を行いながら活動再開していきます。仲間たちの力をお借りして前に進んでいきます。

就労継続支援 B 型

今年度から新しい利用者さんが 2 名入られ、職員体制も変わり新たな気持ちでスタートをきりました。現在はコロナの影響で無くなってしまった外販分を取り戻せるよう、職員一丸となってアイデアを出し合っているところです。学園裏のいわ北ファームでは、夏野菜が実り始め、委託作業では、ティンカーベルファクトと共同で新しい作業を受託し、低迷している工賃の増加に取り組んでいます。

〔特注お弁当の予約も受け付けています〕

ティンカーベルファクト（就労移行支援・就労継続支援 B 型・就労定着支援）

コロナ禍となり、2 年がたち少しずつ日常が戻ってきたように感じます。幸いなことにファクトでは大きな感染拡大がなく、閉所する事態には至っていません。今後も感染拡大防止に努めつつ、よりコロナ禍以前の日常に近づけていきたいです。

令和 4 年度も就労移行 1 名、就労継続支援 B 型に 1 名が利用開始となりました。昨年度からスタッフの入れ替わりもありましたが、利用者スタッフで協力して良い事業所をつくっていきたいと思います。

〔大口注文も頑張っています〕

就労移行支援事業では飲食に興味のある方、飲食で就職を考えている方を募集しています！
見学体験も随時受け付けていますので、お気軽にご連絡ください！（担当：村島（むらしま）　06-6753-0008）

キャプテンフック（放課後等デイサービス）

昨年度、放課後等デイサービスキャプテンフックは、新型コロナウィルスに翻弄され続けた 1 年でした。学校での休校や学級閉鎖、学年閉鎖、突然の下校等、利用されている方及びその保護者につきましても例外ではなく、急な変更や自宅で過ごさないと行けない日々（自粛など）が続き大変な思いをしていたと思います。そういった中、悪い事だけではなく、良い事もありました。その 1 つがマスクの着用や消毒、換気への意識です。初めは戸惑ったり、泣いて嫌がったりする子どももいましたが、今ではお互いに「マスクずれているよ」「消毒の時間だよ」「換気しないと」など、頼もしい言葉が飛び交うようになりました。元気な子どもたちの顔や、保護者の顔を見るたび安心とともに元気をいただいています。新型コロナウィルスの事を含め後ろ向きなニュースばかり続きますが、頑張って乗り切る事が出来るよう、精進していきたいと思います。今のキャプテンフックがあるのは、皆様の協力があってこそだと感じる 1 年でしたので、今年は皆様に元気を分け与える事が出来るよう努めていきたいと思います。

ネバーランドホーム・ウェンディーハウス（共同生活援助）

新型コロナウィルス感染症が拡大する前の休日には、「今日は何食べたいですか？」の問いかけに、「スパゲティーがいい！」「私は、お寿司！」「ハンバーグ！！」等と利用者さんとやり取りをして、ワイワイ元気な声がホームに響いていました。ですが、コロナ禍で外出も思うようにできない日常になってしまい、利用者の方の生活もガラリと変わってしまいました。ホームだから、中ではマスクも外せるはず。ホームだから家族（入居者同士）とくっ付いて過ごせるはず。という中、感染予防もしなければなりません。『我慢』という気持ちを感じさせてしまっている現実に複雑な思いもありますが、そんな中でも、利用者の方が楽しそうにしている、笑っている姿を見ると救われます。

ネバーランドホームもウェンディーハウスもグループホーム、すなわち「家」だと思って利用者の方に少しでもリラックスして過ごせるように、楽しく生活していただけるように支援、対応してきました。それだけに、本当に何とも言えない気持ちになります。また、気兼ねなく大笑いできる日常が 1 日でも早く戻りますように…。

キッズ広場とけいワニ（児童発達支援センター）

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、臨時休業等でご心配とご迷惑をお掛けいたしました。3 月に 10 名が晴れて卒園され、新たに 4 月から 6 名の新しい子どもたちが通われています。新しい職員も増え、更にパワーアップして子供たちと一緒に成長していきたいと思います。今年度はとけいワニの外壁や遊具の塗装を行い、より綺麗になったセンターで、もっともっと楽しく毎日過ごしていきます。また毎週水曜日に、いわき生野学園の Twitter でとけいワニの様子をお知らせいたします。宜しければ、ぜひご覧ください！！！

ピーターパン（相談支援）

R3.9 より新たに相談支援専門員が 1 名加わり、2 名体制での相談支援となりました。新型コロナウィルス感染症の影響で他事業所への訪問や、当事者の方々にお会いする機会も減ってしまい、電話のやり取りだけになってしまったことで、皆様にご迷惑をお掛けしたことも多かったと思います。コロナが落ち着いたら、今年度はまた色々な場所に自転車で走り回っているピーターパンの姿を届けることが出来ると思いますので、猛ダッシュで自転車をこぐ姿を見かけたら、事故のないようそっと見守ってあげて下さい。今年度もよろしくお願いいたします。

コロナ禍でのイベント

コロナ禍において、今までのようなイベントは難しい状況が続きました。しかし、令和 3 年度は感染対策を行う中で、規模を縮小し実施しました。

ミニミニ夏祭り (R3.8.7)

去年の夏祭りは、「ミニミニ夏祭り」と題し、ご家族の方々のみに入場を制限させていただき実施しました。以前のようなライブや打ち上げ花火などはできませんでしたが、スタンプチケットを持って模擬店とゲームコーナを周り、手持ち花火を楽しむ形で行いました。2 年ぶりの夕方の実施で、少し雰囲気を楽しめたように思います。

ミニ学園祭 (R3.10.23)

本来であれば 3 施設合同で行っていた『福祉祭』ですが、今回は学園の『学園祭』のみの開催で検温、消毒の徹底をし、大きな混乱もなく開催することができました。NTT のコンサートも当日行いました。フェイスガードの着用や感染予防を徹底しての楽器の演奏は大変だったと思います。利用者の方やご家族は、青空の下で演奏を聴いて、とても楽しそうにされていました。当日、演奏していただき本当にありがとうございました。間隔をとってゲームコーナー中心でミニバザーや食べ物コーナーも行いました。楽しそうな皆さんの笑い声や笑顔を見て、開催して良かったなと感じました。我慢や自粛は必要ですが、工夫や協力をすることでできることもあると言うことが知れた 1 日になりました。

第13回 健康リフレ大会 (R3.12.18)

新型コロナウィルス感染症の影響を受けて、さまざまな活動を自粛せざるを得ない期間が続いていましたが、R 3 年度は 2 年ぶりに健康リフレ大会を生野区民ホールで開催することが出来ました。「外に出れない」「身体動かせない」などたくさん我慢をしてきた皆さんも、舞台発表や一年の活動の展示、スタンプラリーなど、たくさんの笑顔でイベントを盛り上げてくれました。また、突然のお願いであったにもかかわらず、いつもレクリエーションでお世話になっている善家先生や大阪偕星学園高等学校ダンス部の皆さん、金光藤蔭高等学校吹奏楽部の皆さん、保護者の方々のコーラスなど舞台発表を盛り上げていただき、ありがとうございました。

今回は消毒やマスク、検温などを徹底し、当園の利用者とそのご家族に入場を限定した上での開催となりましたが、次回はこれまでと同じように多くの方に参加して頂けるような状態で開催できることをみんなで願いましょう！

新職員の紹介・人事異動のお知らせ

東郷（とうごう）　優紀（ゆうき）　※放課後等デイサービス勤務

初めまして。新職員としてお世話になります、東郷優紀です。わからないことや慣れないことあも多くあり、迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、若さを活かして一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。

濱（はま）　大輔（だいすけ）　※生活介護勤務 → R4.7.1 放課後等デイサービスへ異動

4 月から働き始めました濱と申します。元気・やる気・笑顔一杯で頑張っていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。

吉本（よしもと）　利彌子（りやこ）　※児童発達支援センター勤務

皆さん、はじめまして！7 月 1 日から「児童発達支援センター キッズ広場 とけいワニ」で働くことになりました、吉本利彌子と申します。15 年ほど保育士として働いていましたが、児童発達支援は初めてです。分からないことだらけですが、一生懸命頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。休日は趣味のドライブでリフレッシュしています。

内村（うちむら）　百子（ももこ）　※地域支援グループからの異動

4 月から地域支援課に配属となりました。敷津浦学園に 25 年、地域支援グループの放デイで 9 年間働かせていただきました。いわき生野学園には、お祭りや交流会や交換研修等でお世話になっておりました♪何卒、お手柔らかに宜しくお願いいたします。

加納（かのう）　康博（やすひろ）　※法人事務局へ異動

この度、4 月 1 日付けで事務局に転勤になりました。在職中は、大変お世話になり、ありがとうございます。私がいわき生野学園に勤務することになって、19 年目になります。私が中途採用された頃は、支援費制度が実施された年にあたります。当時は、今の生活介護と就労継続支援事業 B 型、相談支援の事業しか実施しておりませんでしたし、職員数も 1/4 くらいしかいませんでした。それから、法律を含め、福祉を取り巻く環境も大きく変わりました。平成 20 年代は、グループホームに始まり、放課後等デイサービス、児童発達支援センター、就労移行支援事業まで実施することとなり、規模も大きくなりました。今思えば、あっという間の 18 年間でした。その間、しんどいと思ったことも何度もありましたが、バスツアーや一泊旅行に参加させていただいたり、いろんな行事にも参加させていただきました。その中で、利用者の皆さんに自分の名前を呼んでいただいたり、「おはよう」と声をかけて頂いたりとどんなに癒やされ、励まされてきたことでしょうか。そんな利用者の皆様に会えなくなるのはさみしい気持ちです。未熟な私がこれまで何とか続けてこられたのは、利用者の皆さん、ご家族の皆さん、林田さんをはじめ、職員の皆さんに支えてもらったからこそだと思っています。

こんな私をこれまで支えて下さった、利用者の皆さん、ご家族の皆さん、職員の皆さんにあらためて感謝いたします。これからも自分の気持ちを大切にしながら頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

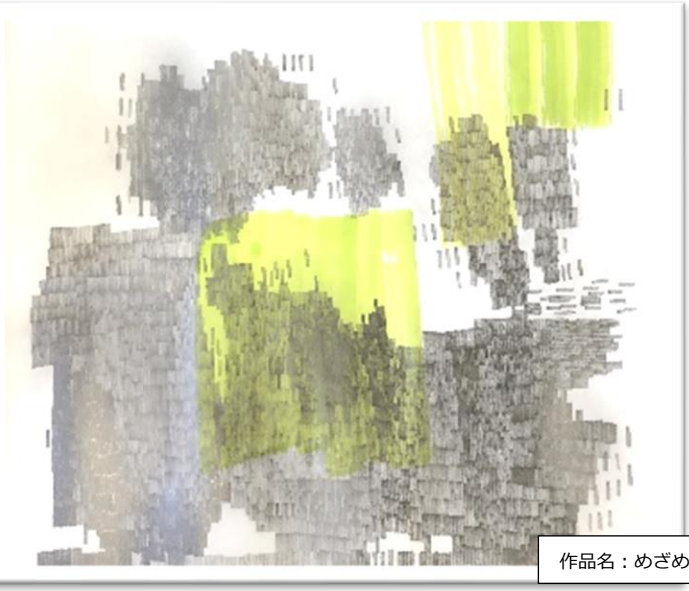
美術作品受賞しました！

作品名：まる さんかく しかく

大阪市が開催しました、『障がい者スポーツを応援するデザイン』に生活介護の北村裕二さんの作品が「Ｔシャツデザイン」として採用されました。
※2020 年 5 月

作品名：電球坊や

四国電力株式会社が主催しました『パラリンアートコンテスト』に生活介護の北村裕二さんの作品が受賞されました。　※2021 年 9 月



作品名：めざめる

関西電力株式会社が開催しました『かんでんコラボ・アート』に生活介護の椋本真理さんの作品が「**最優秀賞**」を受賞されました。※2021 年 12 月

関西電力株式会社が開催しました『かんでんコラボ・アート』に生活介護の西口翔貴さんの作品が「**審査委員特別賞**」を受賞されました。
※2021 年 12 月

⇒

作品名：歳時記

編集後記

コロナ禍で行事等がほとんど実施できない状態になってしまい、約 3 年ぶりの発行となりました。まだまだ終息の見通しがたっていませんが、またこうやって報告できるよう、職員一同引き続き感染対策に気を付けながら、取り組んでいきたいと思います。（広報 PT）